

組込み系ソフトウェア・ワークショップ2017 開催報告

JEITA組込み系ソフトウェア開発に関するワークショップは昨年に引き続き、おかげさまで好評のうちに今年で11年目を迎えました。今回のワークショップではIoTの定義から始め、その特徴を掴み、課題を洗い出すことをめざした講演となりました。特に上流工程におけるIoT時代のモデリングや多種多様なモノとの擦り合わせ開発をテーマにして、活発な議論を行いました。

本ワークショップでは毎年恒例の「全員参加109人ワークショップ」では、今年も熱い議論が交わされました。司会進行役からの設問に対し出席者全員が3色の色紙を挙げて意見表明し、近くの机に居合わせた出席者同志でグループを作り、議論を行いました。講演内容を聞いた後での議論となるため、出席者から様々なご意見が取り交わされ、当日は約70名の参加となり、意欲と意識の高さを感じるとともに組込み系ソフトウェアに関する意見交換の場として有効なワークショップとなりました。

日 時：平成29年11月2日(木) 13:00-17:30

場 所：JEITA 409-411会議室

参加者：70名

①ソフトウェア事業基盤専門委員会の活動について ワークショップ2017の狙いと課題認識

講師：JEITA ソフトウェア事業基盤専門委員会
委員長 五味 弘 氏(沖電気工業)

②IoTをソフトウェアエンジニアリングする： 品質の作り込みと評価

講師：中島 毅 氏(芝浦工業大学)

③社会インフラ分野でのIoT取り組みと課題 ～保守高度化などを例に～

講師：近藤 浩一 氏(東芝インフラシステムズ)

④建設機械の遠隔管理システム

講師：神田 俊彦 氏(コマツ(小松製作所))

⑤全員参加型109人ワークショップ： 徹底議論！IoT時代のソフトウェア開発、 IoT開発と上流モデリング



ワークショップ後、講師に質問をする出席者



色紙で意思表示をする出席者